

河川水質、3年連続全地点で基準達成 環境調査結果まとまる

枚方市は、継続的に水環境や大気環境などの環境の監視を行っている。平成30年度の環境調査結果をとりまとめ令和元年版環境データ集」として公表する。

河川水質については、改善傾向で推移している。水の汚れを表す代表的な指標である生物化学的酸素要求量（BOD）が、3年連続して環境基準点3地点（船橋川・穂谷川・天野川）の全てで環境基準を達成した。

大気環境については、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質（PM2.5）、二酸化硫黄、一酸化炭素及び有害大気汚染物質は、環境基準を達成した。

微小粒子状物質（PM2.5）については、自動車排出ガス測定局の中振局と一般大気測定局の王仁公園局で昨年度に引続き環境基準達成となった。

環境データ集は枚方市ホームページに掲載しているほか、市役所別館6階行政資料コーナーや各図書館で閲覧できる。

<平成30年度の環境の状況>

★河川水質の状況

カドミウムや全シアンなどの有害物質については、全ての地点で環境基準を達成した。また、水の汚れを表す代表的な指標である生物化学的酸素要求量（BOD）についても、環境基準点3地点（船橋川・穂谷川・天野川）全てにおいて環境基準を達成した。

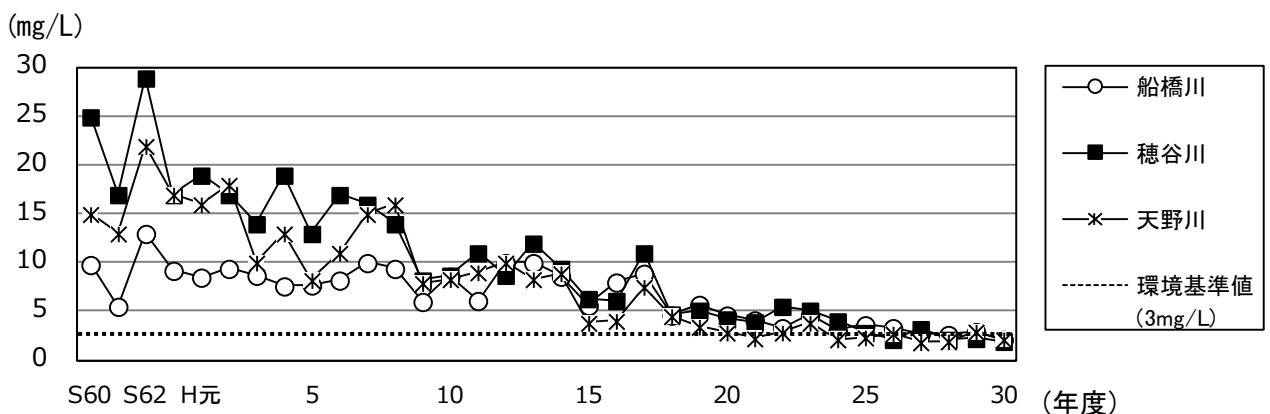


図1 環境基準点でのBOD 75%値の推移と環境基準値との比較

★大気環境の状況

二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、二酸化硫黄、一酸化炭素及び有害大気汚染物質（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）については、環境基準を達成した。光化学オキシダントについては、平成30年度も環境基準を達成できなかった。

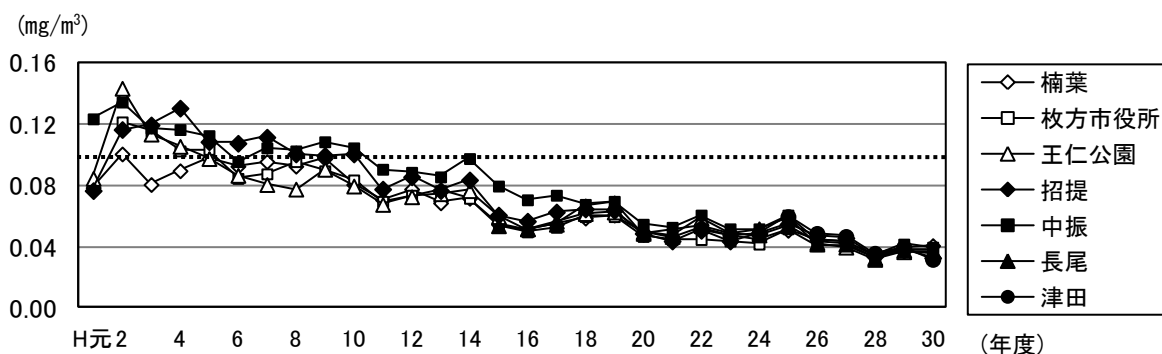


図2 浮遊粒子状物質の濃度の推移と環境基準値との比較 (…………… 環境基準値)

微小粒子状物質（PM2.5）については、王仁公園局と中振局の年平均値が11.0と12.8 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ で、長期基準の15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であった。また、日平均値の年間98%値についても25.0と29.9 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、短期基準の35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であったことから、王仁公園局および中振局ともに環境基準を達成した。

環境基準に適合するためには、次の2つの条件を同時に満足する必要がある。

- (1) 年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
- (2) 日平均値の年間98%値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

<令和元年版環境データ集>

平成30年度の河川水質や大気環境について、詳細なデータや騒音、地盤沈下などの環境の状況を掲載しており、枚方市ホームページをはじめ、市役所別館6階行政資料コーナーや図書館でも閲覧できる。

<お問い合わせ>

環境部 環境指導課 ☎ 050-7102-6018 (直通)、FAX 072-841-1315